

忍藩士 尾崎石城の酒場放浪記

もっとも酒をたしなみ、五〜六樽を倒すのを常とし、他家へ招かれて行く時は、まず自宅にて二〜三樽を傾けて後に出掛けしと云う

この文章は、石島薇山の著書『新修忍の行田』の中で幕末の忍藩士尾崎石城について説明した一節です。江戸時代の酒は現代よりもアルコール度数が低かったとはいえ、石城がいかに大酒飲みであったかを物語っています。今回は彼が綴った『石城日記』から尾崎石城の酒場放浪記的一幕をひもときます。



酒宴を楽しむ様子。左端の人物が尾崎石城 (慶應義塾大学文学部古文書室所蔵)

石城がよく訪ねた酒場の一つが忍城下にあったという中屋。肴には鰯の煮付けや刺身、そばなどが並びます。他にも崎玉屋、和泉楼、大利楼といった料理屋で酒宴を楽しんだようです。彼の意外な酒友は僧侶たちでした。僧侶は修行の過程でさまざまな書物を読み、学者肌の石城とは意気投合する所があったのかもしれない。

ひとつたび石城と気心の知れた仲間が集まると、同僚の松平家臣の屋敷や城下の寺院でさえ酒場に早変わりです。酒や肴を持参する者もあり、大小の宴会が開かれました。大皿に盛った肴を畳敷きの座敷に広げ、それを囲んでつまむのが一般的でした。酒が進んだ翌日は、酔いが覚めるまでのんびり過ごしていられたのも、藩の規律に反して謹慎中であった石城の身の上ならではの生活リズムであったのでしょうか。昼間は子供たちへの手習いや襖絵などの制作で生計を立てつつ、夕方は酒場での交流を楽しむ石城の姿には、藩内での不遇に悩みながらも、一日一日を自分らしく生きるという彼の信念が滲み出ているようにさえ感じられます。(郷土博物館 澤村怜薫)

はじめまして



平成30年8月生まれのお子さんを募集します

- 6月4日(火)〜28日(金)に電話またはEメールで広報広聴課広報広聴担当(内線318) ※応募要領は市ホームページをご覧ください。
- 応募者多数の場合は、7月2日(火)午前11時から市役所203会議室で公開抽選を行います。



平成30年6月生まれのおともだち



真壁 一叶ちゃん(緑町)
平成30年6月1日生まれ
父・勝之さん 母・真美さん
「我が家の4番目☆
元気に成長中!」



金井 結愛ちゃん(前谷)
平成30年6月29日生まれ
父・一樹さん 母・祐未さん
「明るく元気に育ってね♡」



長森 玲ちゃん(渡柳)
平成30年6月14日生まれ
父・圭さん 母・亜希さん
「めざせープロ野球選手♡」



浅野 蓮翔ちゃん(谷郷)
平成30年6月29日生まれ
父・翔太さん 母・まどかさん
「すくすく元気に育ってね」



梶原 梨央ちゃん(長野)
平成30年6月6日生まれ
父・健司さん 母・正美さん
「沢山の笑顔と幸せを
ありがとう♡」



田島 青来ちゃん(荒木)
平成30年6月19日生まれ
父・祐樹さん 母・実結さん
「すくすく大きくなってね♡」

今月の表紙

5月4日、さきたま古墳公園で第34回さきたま火祭りが開催され、約9万人が訪れました。

採火行列に導かれ、輦台に乗ってニニギノ命とコノハナサクヤ姫が登場。産屋に火を放つと、瞬間に炎に包まれ、その幻想的な光景に来場者は目を奪われていました。

■市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)まで。

■市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。

■市報をダイジ版に録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)までご連絡ください。



環境にやさしい
植物油インキ

市報ぎょうだは
再生紙を
使用しています